

## 第38回 圧力容器規格委員会 議事録

### 1 日時：

令和6年3月21日（木） 10:00～12:30

### 2 場所：

高圧ガス保安協会 第2会議室（Web会議併用）

### 3 出席者（順不同、敬称略）：

委員長：井上\*

副委員長：高橋\*

委員：坂倉\*、大江\*、寺田\*、後藤\*、佐藤（信）、池田\*、宮川\*、板谷\*、佐藤（雅）\*

陪席：小林

KHK：加藤、瀬谷、山本、富岡、梶山、三宅

\*Webでの出席者

### 4 議題：

- (1) 圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準の改正案について（38資料1～2）
- (2) その他

### 5 配布資料：

38資料1 圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準 KHKS0225 改正案

38資料2 その他

### 6 議事概要：

#### 議題(1)、圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準 KHKS0225 改正案

38資料1に基づき、事務局より圧縮水素蓄圧器用複合圧力容器に関する基準 KHKS0225 改正案について説明をおこなった。これについて、以下の質疑があった。

- 1) 附属書FのF.2.3「最適疲労曲線」において、冪乗の係数を統計処理しているが、最終的に表F.4の総平均の説明に誤りがあるように思われる。  
→改正案の統計処理の説明については、実態を反映した説明とする。
- 2) 改正案中の公式などの書式が不統一であるため、確認すること。  
→JIS又はISOなどを参考に全て見直しを行い、表現を統一することとする。

- 3) 附属書 C は参考となる論文（複合容器の公式による設計における定式化：小林英男著）をもとにして見直すべきではないか。  
→拝承。
- 4) 疲労寿命の解析の式(6)の係数 C 及び m は附属書 F で求められている。記号ではなく、数値として式中に取り込むこと。  
→拝承。
- 5) 樹脂含浸炭素繊維層の炭素繊維の許容引張応力の算定には、炭素繊維の許容引張応力に対し、安全率（2.0）及び強度発現係数  $\alpha$  を使用することと規定されている。 $\alpha$  を求めるために応力解析を要求しているが、ここは単に安全率のみを考慮すべきではないか。  
→応力解析は要求せず、炭素繊維の引張強さと安全係数で表現する。

#### 議題(2), その他

次回委員会の日程：別途事務局から連絡することとなった。

以上